

アジアの「おしん」に 奨学金を

奉公先の子供を背負った「おしん」という理由だけで学校に行けない「尋常小学校の前を通りかか」る青少年たちが多く存在し、アジアの「おしん」と同じ年頃のこともちが願います。

先生のことについて教科書を唱和している。「オラも学校サ入って本読みてえナ」と「おしん」はつぶやくのだった。

再放送されることになったNHKの人気番組「おしん」の一場面です。今の日本では、もちろんこんな姿は見られません。しかし私たちの近くアジアの国々には、今でも何千万人もの「おしん」がいるのです。

フィリピン、インドネシア、タイなどの発展途上国には、才能があり、学ぶ意欲があっても、貧し

ますし、大学生でも八千円もあれば授業料と生活費の大半を援助できます。どうか皆さまのタバコ代や酒代をほんの少しだけ切りつめて、アジアの「おしん」に暖かい手をさしのべて下さいませんか。
「アジア青少年奨学金基金」
ご寄付 一口二千円(何口でも可)

奨助会費(個人) 一口二万円
奨助会費(企業・団体) 一口五万円
〔お取り扱い〕
〒一〇六港区南麻布四一九一
七(財)日本国際交流センター
内 ACT事務局 (電話四四
六七七七八、担当・伊藤、田
中 振替口座 東京〇一九七
五五「公益信託 アジア・コミ
ュニティ・トラスト」)
〔※ ACTの設定にあたって
は、東京織物卸商業組合員の三英
聯合井保太郎氏に一千万円のご寄
付をいただいています。〕

各地に奨学金を設定してきました。すでにフィリピンでは、貧困家庭の中学生を対象として、職業技術を身につけるための学費と生活費を援助していますし、インドネシアでは、スマトラの高校生と大学生に対して奨学金を支給しています。

日本に比べて物価の安いアジア諸国では、小学生段階で僅か月々二千円で学費と給食費をまかなえ